

麻痺の体に 無限の可能性

名護でゴルフコンペ



片手でクラブを握り、ティーショットを放つ参加者。名護市・久志岳ゴルフガーデン

【名護】山口市内で高齢者や障がい者向けに「デイサービス」を提供しているNPO法人「夢の湖舎」(藤原茂代表)は7日、名護市の久志岳ゴルフガーデンで第1回「夢のみずうみ杯片麻痺コンペ沖繩」を開いた。県内外の障がい者やその家族ら約30人が参加。半身まひの参加者は片手でスイングするなど、それぞれのスタイルでプレーを楽しんだ。

同NPOは利用者の自己選択・自己決定を重視し、訓練メニューに「カジノゲーム」を取り入れるなど、ユニークな試みで知られている。コンペもその一環で、藤原代表が学院長を務める琉球リハビリテーション学院(金武町)の学生12人が補助役を担当した。

両足に人工股関節を入れている佐々野高さん(73)「山口市」は「8年ぶりのゴルフ。もうできないと思っていたが、プレーしていたころを思い出した」と笑顔。理学療法士を目指す同学院の与那嶺光太さん(21)は「皆さん、楽しそうだった。リハビリ効果も高まるのでは」と参考になった様子。

藤原代表は「障がい者は行動に制限を受けるが、同時に限られた範囲でも自らの意志を実現できることに気付く。ゴルフもその一つ。沖繩で回を重ね、全国規模の大会にした」と語った。